

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	一般社団法人マンパワー 放課後等デイサービスたんぼぼ				公表日	令和8年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	2	限られたスペースの中で、安全に配慮しながら支援を行なっている。	空間の使い方等の見直しを行い、より安全で過ごしやすい環境づくりに取り組んでいく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	必要に応じて他事業所からの応援を受ける等、個別対応が必要な場面にも対応できるような体制を整えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		段差の解消や動線の確保など、バリアフリーについては対応ができており、安全に配慮した環境整備が行われている。	視覚的にわかりやすい情報提供については十分とは言えず、課題がある為、スケジュールの見える化などを行い、子どもが安心して過ごせる環境づくりに取り組む。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	1	清掃・整理整頓を行い、清潔で過ごしやすい環境づくりを行っている。	活動ごとに十分なスペースを確保することが難しく、空間の使い分けに課題がある。今後は、時間帯や活動ごとの工夫により改善していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		必要な場合は別室にて対応するようにした。	今後は、移転後の環境を活かし、個別スペースの確保や落ち着いて過ごせる環境づくりに取り組んでいく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	1	毎日の職員ミーティングで利用児の様子等を伝え、職員間で課題の共有はできています。	情報共有は行っているが、評価や改善へと繋げることが十分ではない為、目標設定と振り返りを意識し、改善につなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		3		今回が初めての実施であり、今後は評価結果を活用して改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		毎日のミーティングで職員が意見を出し合える機会を設け、現場の状況や課題の共有ができています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		今回が初めての実施であり、今後は評価結果を活用して改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		法人内研修の機会は確保されており、職員の資質向上に努めている。	より良い支援の提供ができるよう、研修内容の充実を図る。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		3		日々の活動の内容やねらいが保護者にも分かるようにしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		こどもや保護者のニーズを踏まえた上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	内容の整理や情報を分かりやすくまとめ、共有を強化していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		職員間で情報共有や話し合いを行い、共通理解のもとで放課後等デイサービス計画の作成に努めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		統一した支援を行なうことができています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	2	日々の関わりや活動中での行動観察を通じて、こどもの様子や変化を把握するよう努めている。	チェックシート等を活用し、より客観的な評価につなげていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		こどもの状況を踏まえ、具体的な支援内容となるよう工夫している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		職員間で話し合いながら、活動プログラムの立案を行っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	1	2	学級日は様々な活動を取り入れるようにしている。	平日は活動内容が固定化しがちな傾向があり、バリエーションに課題がある為、新しい活動を取り入れるなど改善していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	1	2	対人関係に課題を感じている子が多い為、集団活動の時間を多く確保している。	個別活動と集団活動のバランスについては課題があり、一人一人に応じた組み合わせを意識していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		前日のミーティングで支援内容の確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		ミーティング時に振り返りを行なっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		日々の情報共有は行なうことができている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		個別支援計画の振り返り、見直しを6か月に1回行なうことができている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	2	1	複数の活動を組み合わせ支援している。	活動内容が偏ることがあり、十分に組み合わせ実施できていない部分がある為、活動のバランスを意識し、幅広い支援につなげていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		活動内容や過ごし方について、こどもが自分で選択できる機会を設け、自己決定を促すよう支援している。	択肢の幅を広げ、こどもが主体的に選べる機会を増やしていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		関係機関と情報共有を行いながら、統一した支援に努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		密に行なうことができている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		必要に応じて、就学前に利用していた関係機関と情報共有を行い、こどもの状況把握に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				そのような事例が現時点でない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		3		連携を強化し、助言や研修を受ける機会を増やしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3		同一建物内において、地域の子どもたちが参加できる活動を行っており、そこにて交流をすることができている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3		参加している。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	1	送迎時を通じて日頃の様子は伝えている。	発達状況や課題についての共通理解をより深めていく為に面談等の機会を活用し、より丁寧な共有を行っていく。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				家族支援の機会が十分に確保できていない為、情報提供の充実や研修の実施等を検討していく。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約前のオリエンテーションにて実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		6か月に1回の面談時に意向を確認した上で、個別支援計画の作成をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		面談時に同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	1	相談には随時対応している。	周知の徹底と相談しやすい環境作りへの強化に努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。				保護者会や交流会の実施を検討し、保護者同士が悩みや情報を共有できる場を設けていきます。家族全体を支援できる体制づくりを強化していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		対応することができている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。				SNSを活用した情報発信は行っているものの、投稿頻度が少ない状況であり、定期的に発信できるよう投稿頻度の向上に努めます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		強化している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		こどもの特性に応じて、分かりやすい言葉かけをする等、一人一人にあった方法で意思の疎通ができるように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3		夏祭りやよさこい等、地域のイベントに参加している。月1回誰でも参加可能の子ども食堂を開催している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	2	訓練の実施はしている。	保護者への周知を強化していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		訓練の実施はしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		契約時のオリエンテーションで確認している。	必要時は医師へ対応の確認をしていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食事提供がある為、契約時のオリエンテーションでアレルギーの有無を確認している。	そのような事例が現時点でない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		研修や訓練を実施する等、安全管理に努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	1	日々声かけや注意喚起を通じて、こどもの安全確保に努めている。	家族への周知を強化していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		職員間で共有することができている。また、記録は残し、保管している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		職員間で情報共有を密にし、職員全員が適切な支援を行なうよう、意識の共有を図っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		身体拘束については、やむを得ない場合の対応や基本的な考え方について職員間で共有している。		